

水道料金審議資料 (第2回)

水道事業の状況

- 水道事業の状況のまとめ
- 継続して必要とされる事項

現有施設の状況

- 施設数、資産
- 施設の維持、更新

これからの事業投資

- 水道施設の将来見込み



水道事業の経営状況

- 料金改定前までの水道事業の経営状況
- 給水人口、有収水量の見通し
- 収益的収支の見通し
収入の内訳
支出費目
- 企業債の見通し
残高・償還金・減価償却費
支払利息・償還金
- 平成25年度審議方針に対する見通し
- 財政計画のまとめ
- 水道事業経営の見通し

水道料金のあり方について

水道事業の状況

(水道事業の状況のまとめ：前回提出資料)

収支の推移

- 収益の94%超が料金収入。
- 利益確保の取組として費用の削減に加え、平成26年度に料金改定を実施。
- 財源としては増加。

使用水量の推移

- 「給水人口」「有収水量」とともに、減少傾向。

企業債の状況

- 残高は中核市平均より多い。

水道管の将来見込み

- 水道管の老朽化に対応するため、維持・更新への継続的な投資は必要。

今後の見通し

■ 人口減少や節水型社会の進展により、有収水量は減少傾向。

■ 料金改定により、有収水量の減少に伴う減収を補う。

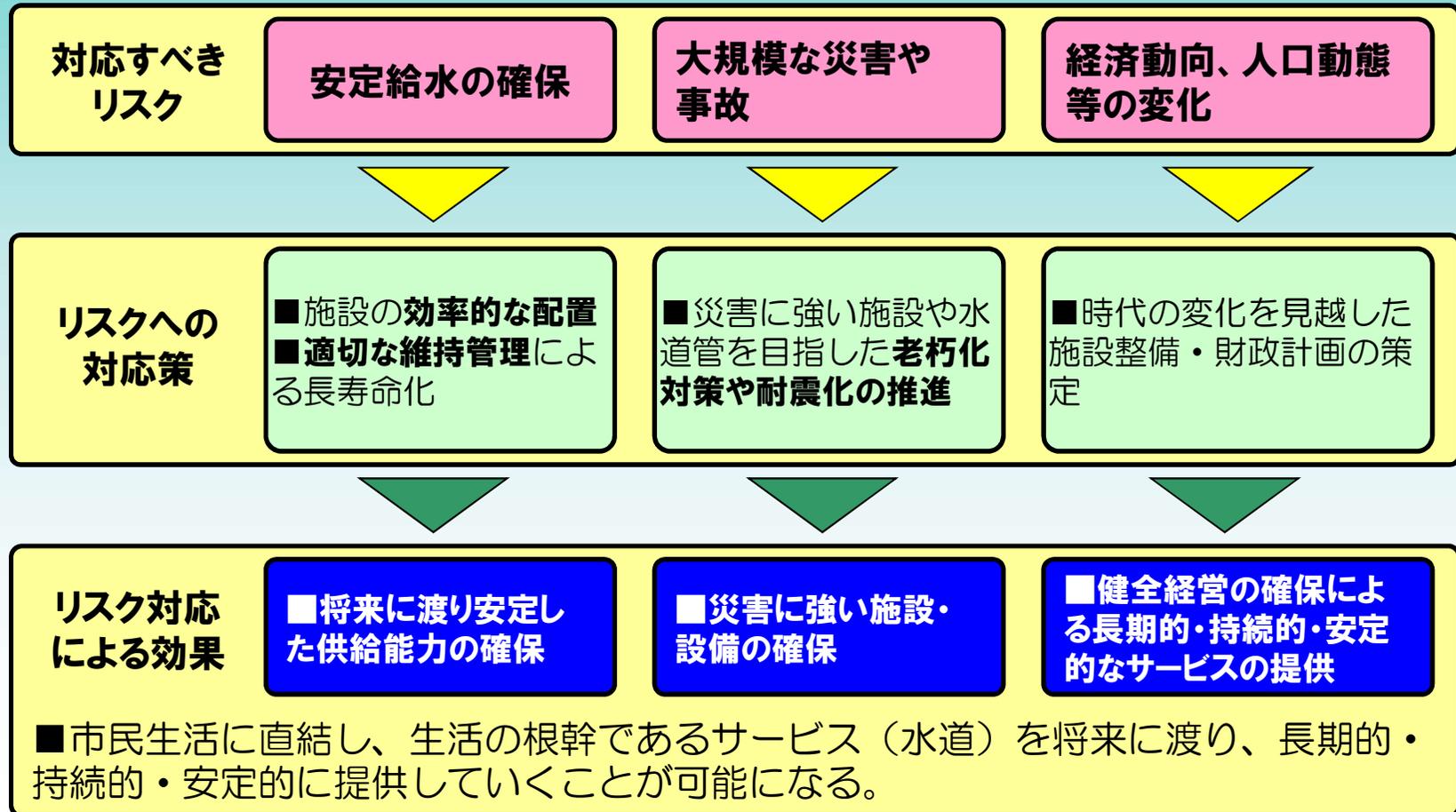
■ 企業債残高は、比較的高水準だが、今後は縮減が進む。

■ 施設の老朽化に対応し、維持・更新への投資は継続。

水道事業の状況

(継続して必要とされる事項)

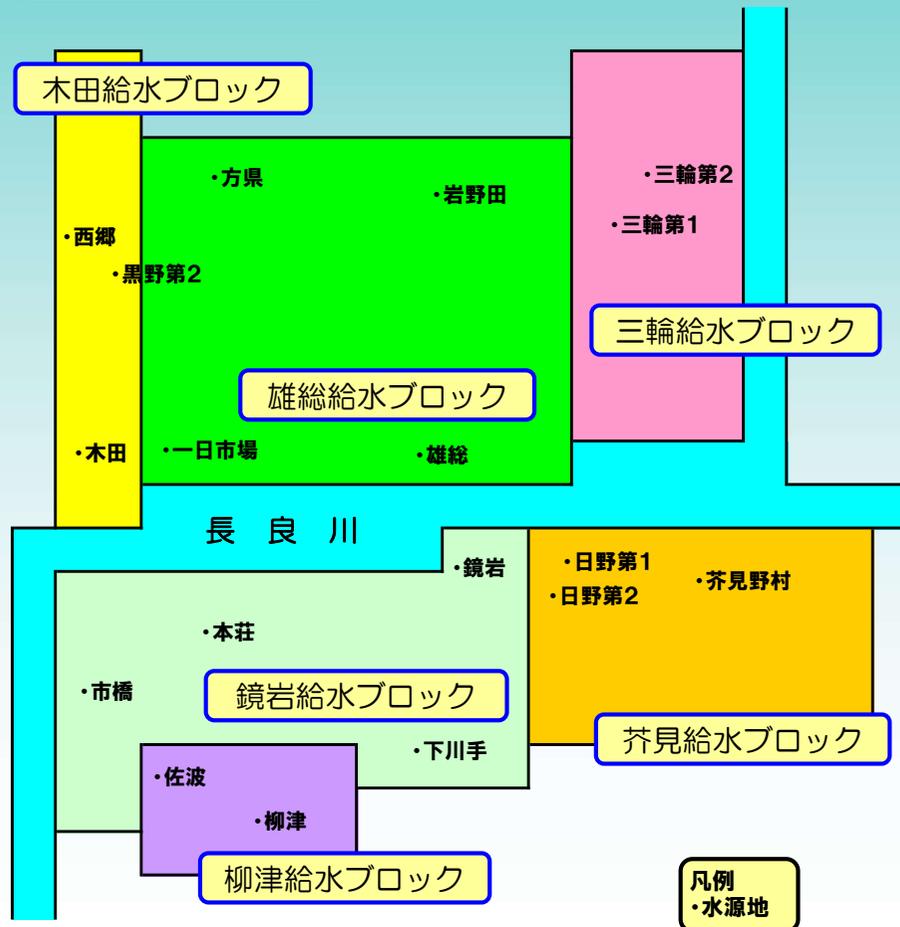
今後対応が必要と予想されるリスク



現有施設の状況

(施設数・資産)

水道区域図



平成27年度末の状況

■6つの給水ブロック

■18カ所の水源地

■水源は、地下水

※雄総、鏡岩水源地は伏流水。
その他は深井戸

■水道管総延長
2,364km

現有施設の状況

(施設の維持・更新)

施設の維持・更新の考え方

■ 「水源地」、「配水池」等水道施設の**機械・設備の修繕**

■ 漏水等に伴う「**水道管**」の修繕

※当年度の**収益のための費用**として、「**収益的収支**」の中で計上

■ 「水源地」、「配水池」等水道施設の**新築、改築(整備)**

■ 「水道管」の**布設(拡張)及び布設替え(整備)**

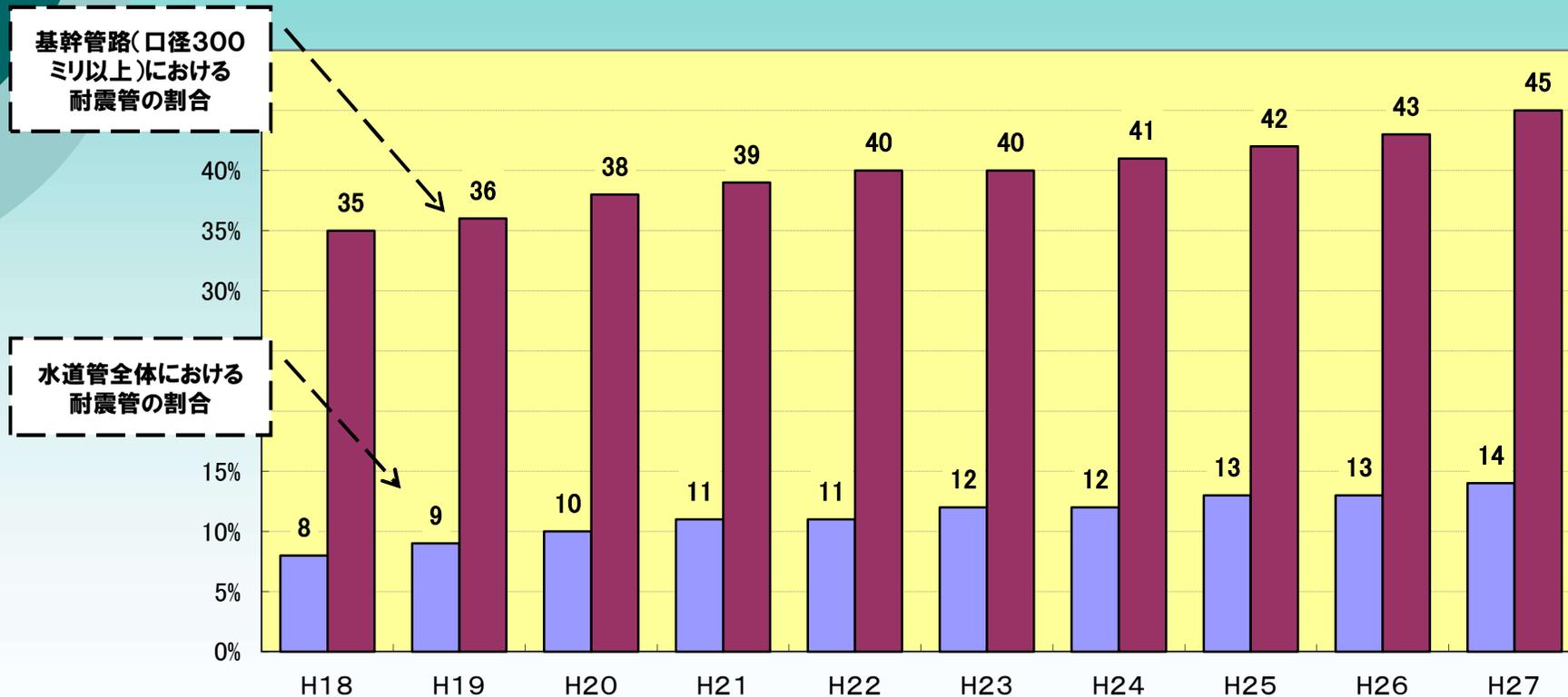
※**経営規模の拡大等**のための「**拡張・整備**」の投資として、「**資本的収支**」の中で計上



今後の維持管理の中心となる「**拡張・整備**」について説明

現有施設の状況 (施設の維持・更新)

水道管の耐震化の実績



※基幹管路における耐震化率は、中核市42市中「7位」

これからの事業投資 (施設の維持・更新)

水道施設及び水道管の拡張・整備の計画(資本的収支)

「水源地」、「配水池」等水道施設の拡張・整備の主要事業

拡張

岩野田配水池、藍川配水池の築造、日野加圧施設、方県加圧施設の建設などに、**今後10年間で約20億円**の工事等を要する。

整備

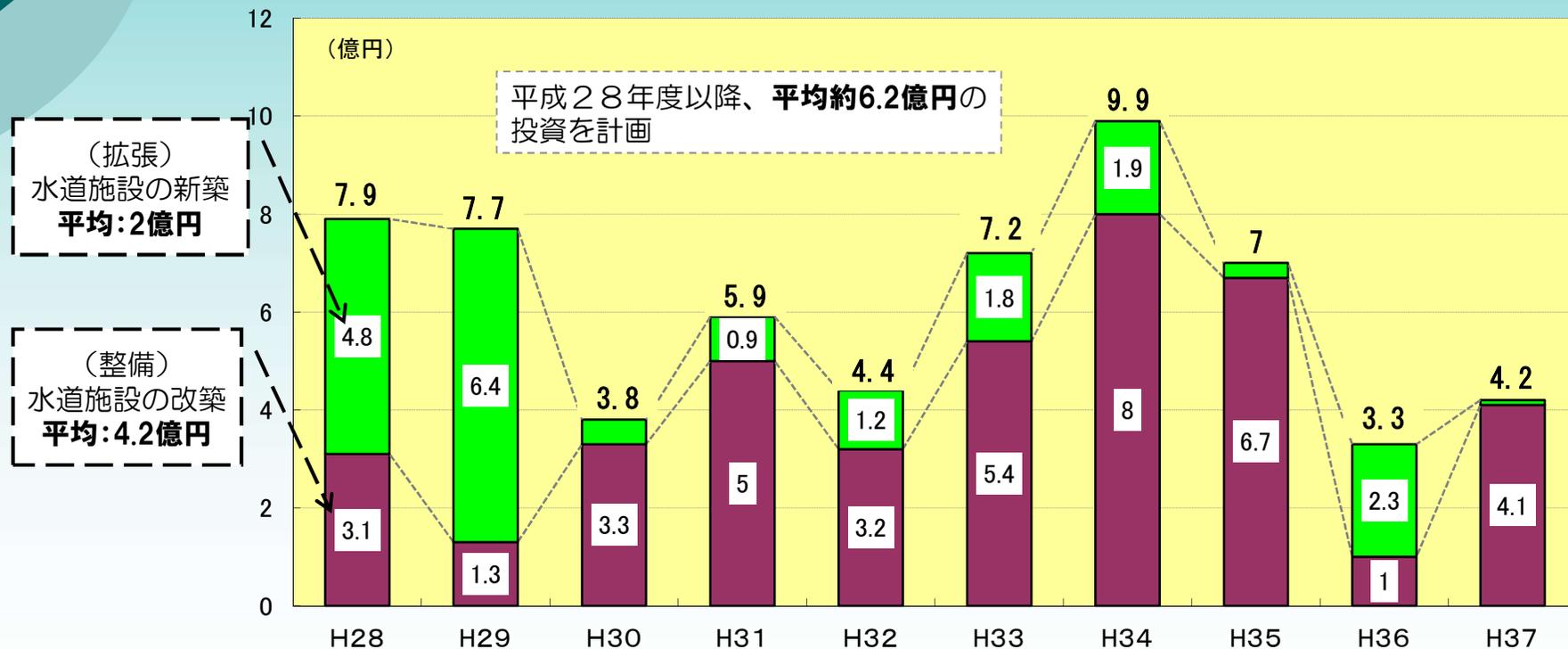
鏡岩	：ポンプ・設備更新、電気・計装設備更新、耐震補強等	約20億円
雄総	：ポンプ・設備更新、電気・計装設備更新、耐震補強等	約 4億円
本荘	：ポンプ・設備更新、遠方監視設備更新・改良、耐震補強等	約 3億円
市橋	：ポンプ・設備更新、遠方監視設備更新・改良、耐震補強等	約 2億円
芥見野村	：ポンプ・設備更新、消毒設備更新・改良、耐震補強等	約 1億円

上記の工事をはじめとし、**今後10年間で**各水源地、配水池の設備更新や耐震化に**約41億円**の工事等を要する。

これからの事業投資 (施設の維持・更新)

水道施設及び水道管の拡張・整備の計画(資本的収支)

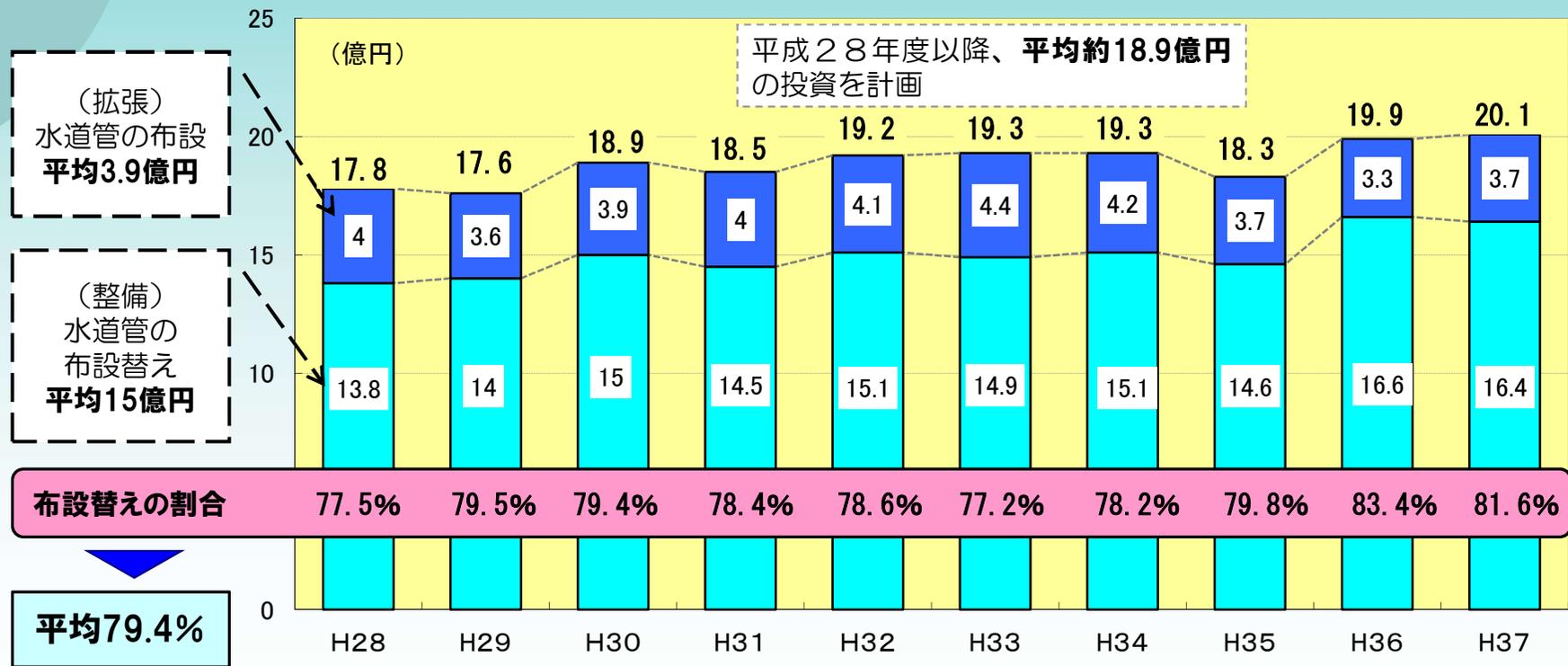
「水源地」、「配水池」等水道施設の拡張・整備の計画



これからの事業投資 (施設の維持・更新)

水道施設及び水道管の拡張・整備の計画(資本的収支)

水道管の布設・布設替えの計画

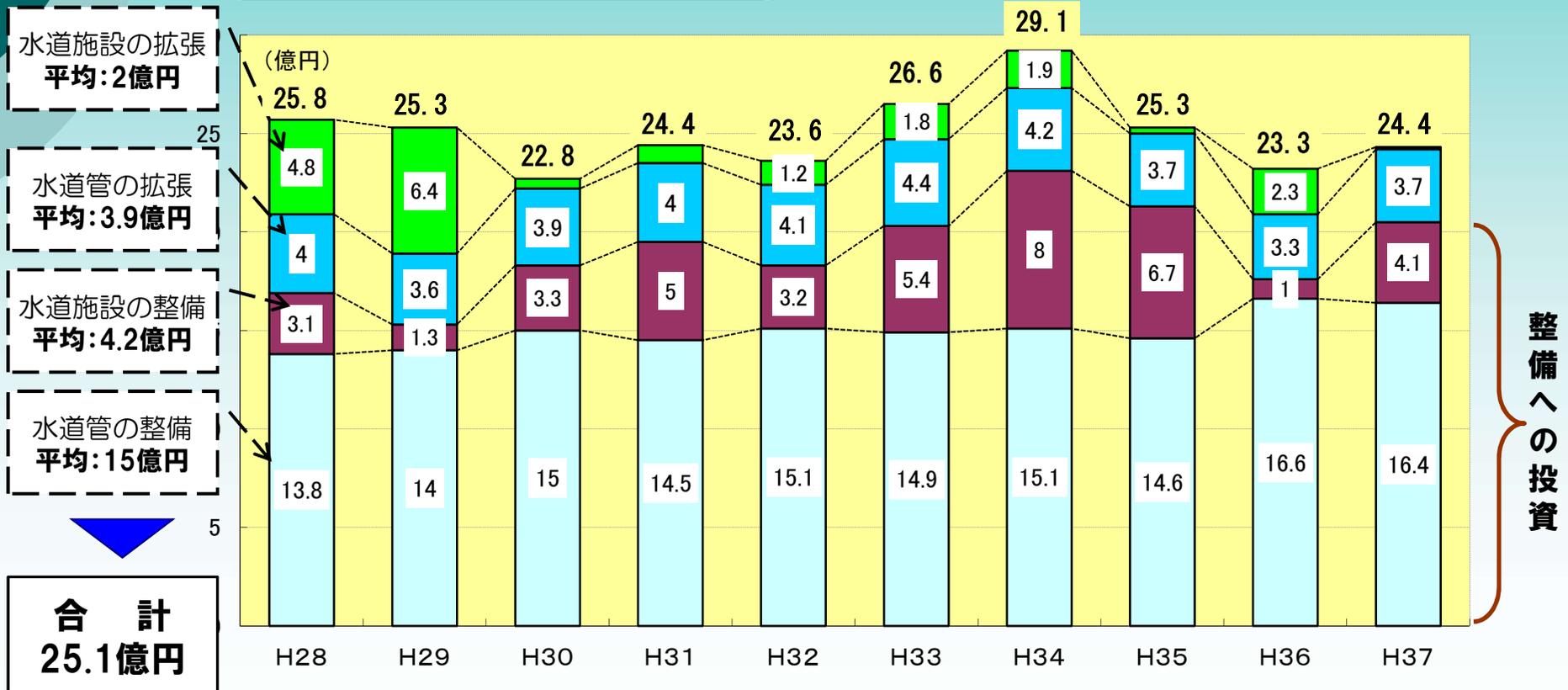


これからの事業投資 (施設の維持・更新)

水道施設及び水道管の拡張・整備の計画

これからの事業投資の予定

水道施設及び水道管
の拡張・整備の合計



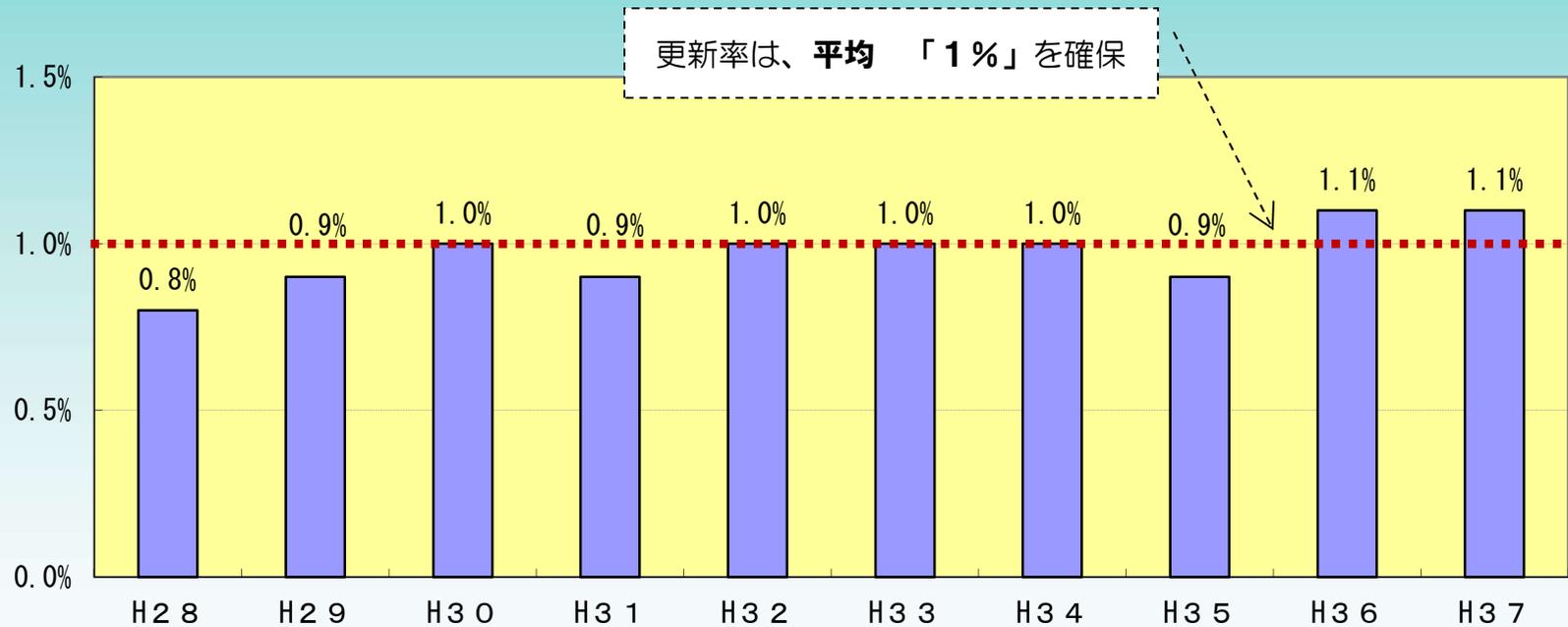
これからの事業投資 (施設の維持・更新)

水道施設及び水道管の拡張・整備の実績と計画(まとめ)

	投資内容	平成18～27年度実績	平成28～37年度予定
拡張	水道施設の拡張	平均：3.4億円	平均：2億円
	水道管の拡張	平均：4.2億円	平均：3.9億円
整備	水道施設の整備	平均：1.2億円	平均：4.2億円
	水道管の整備	平均：11億円	平均：15億円
総計		19.8億円	25.1億円

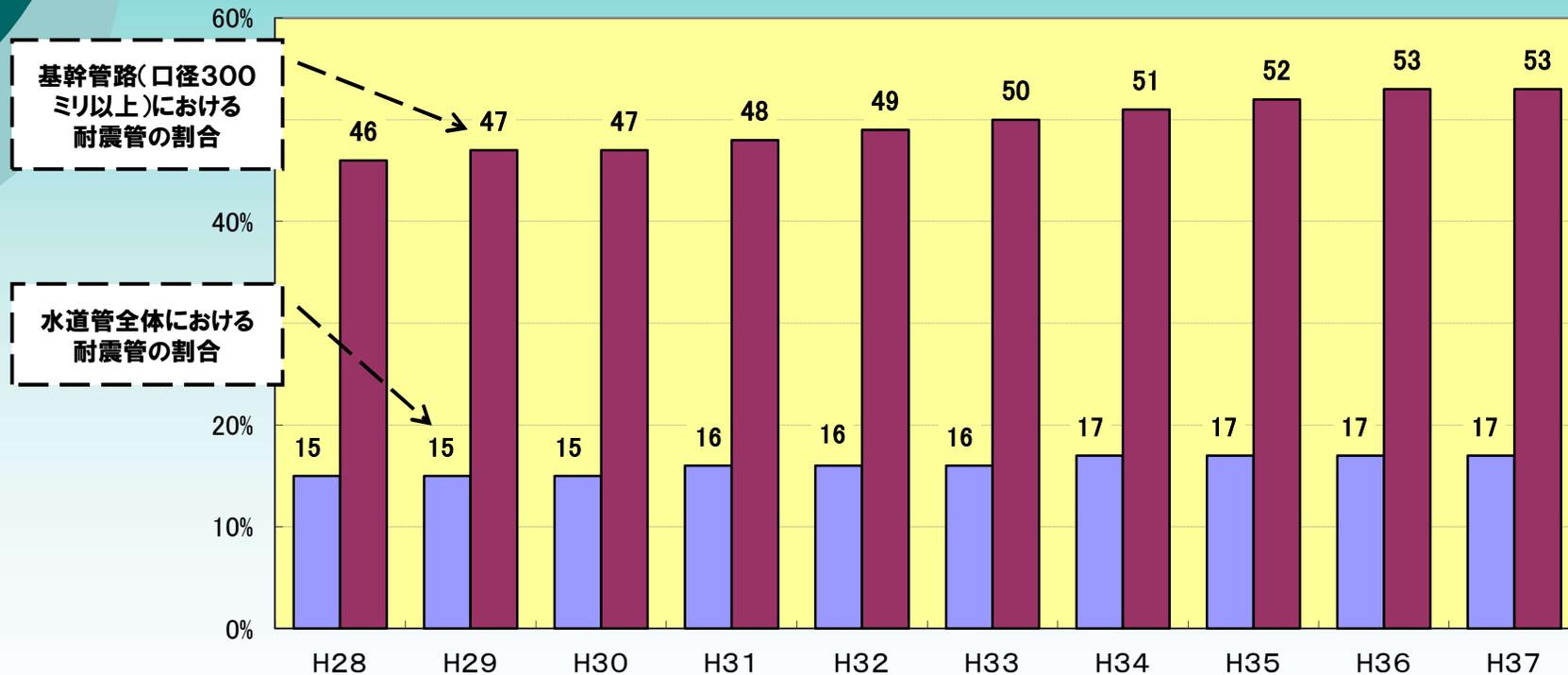
これからの事業投資 (施設の維持・更新)

今後の水道管の更新率の見通し



これからの事業投資 (施設の維持・更新)

水道管の耐震化の今後の見込み

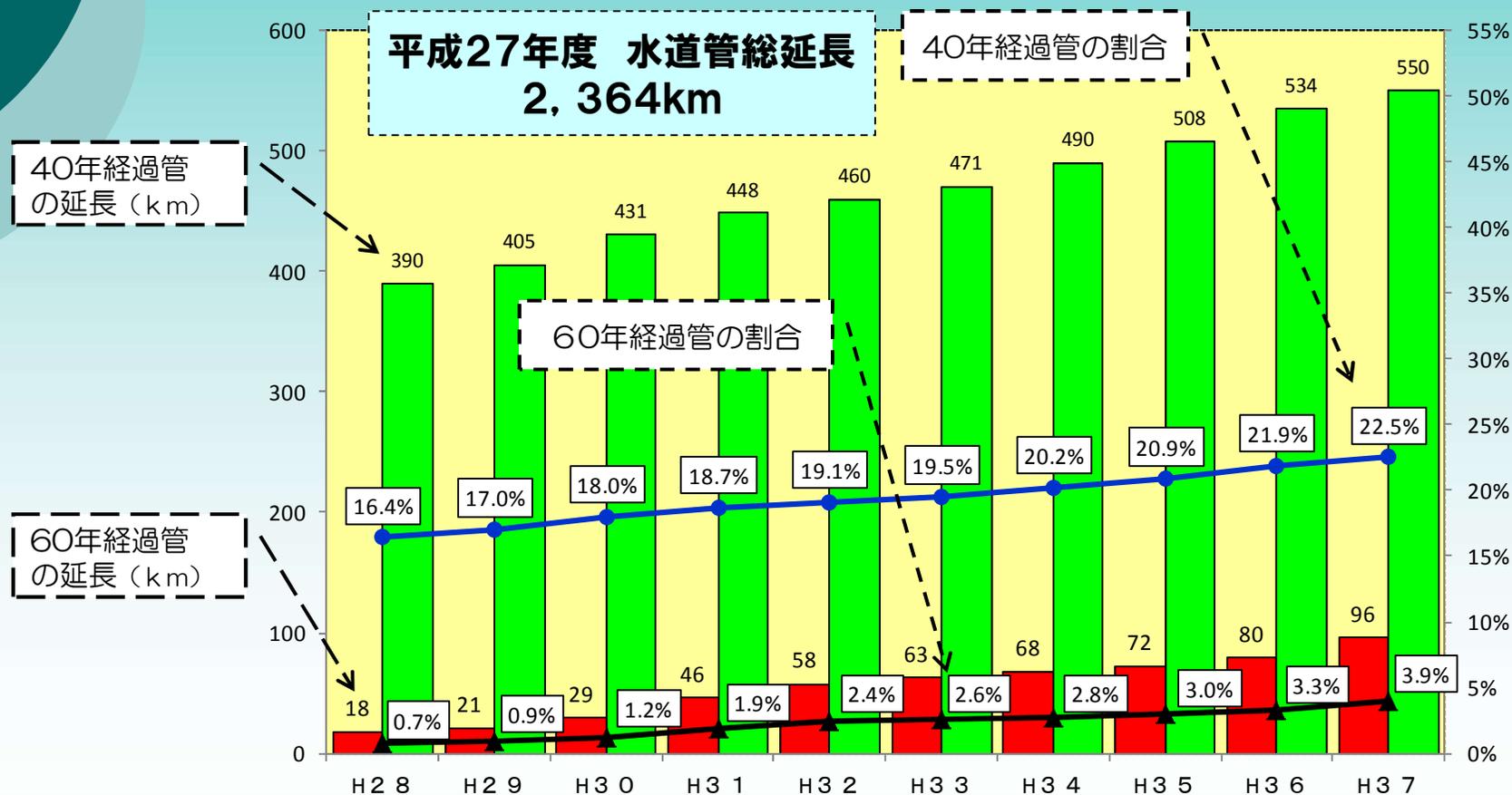


※平成37年度における耐震化率の見通しは基幹管路で「53%」

これからの事業投資

(水道施設の将来の見込み：前回提出資料)

今後の老朽化する水道管の延長と総延長に対する割合



※更新投資の継続により、老朽管の大幅な増加は回避できる見込み。

水道事業の経営状況

(料金改定前までの水道事業の経営状況)

これまでの水道事業経営の考え方(H26年度改定前)

■収益的収支(短期的視点)を重視した事業・財政運営

■収益的収支に「赤字」が見込まれる場合、料金改定を実施

収益的収支と資本的収支の状況(H26年度改定前)

収益的収支

■低金利による支払利息の減

■投資の絞り込みによる減価償却費の伸びの鈍化

■定数削減など経費の削減

■収益的収支の黒字は、確保の見込み。

資本的収支

■企業債償還額が減価償却費を上回っている

■投資の財源を企業債に依存。残高が多い

■水道管の老朽化対策など避けられない投資の増加

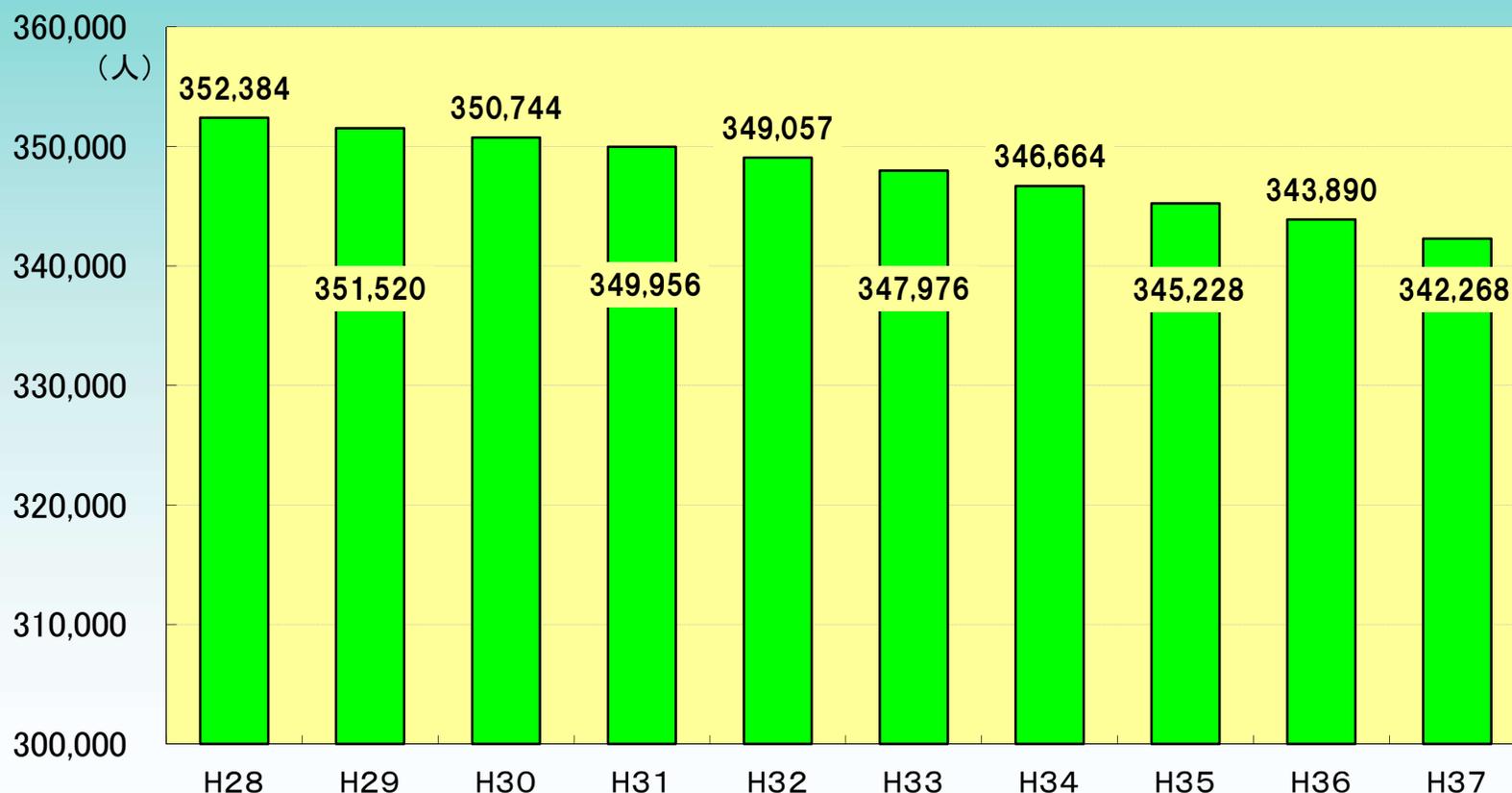
■資本的収支については、早急に改善に着手する必要。

■「収益的収支」、「資本的収支」の両面から料金のあり方を検討し、「短期的視点から長期的視点への転換」を行った。

水道事業の経営状況

(給水人口・有収水量の見通し)

給水人口の見通し

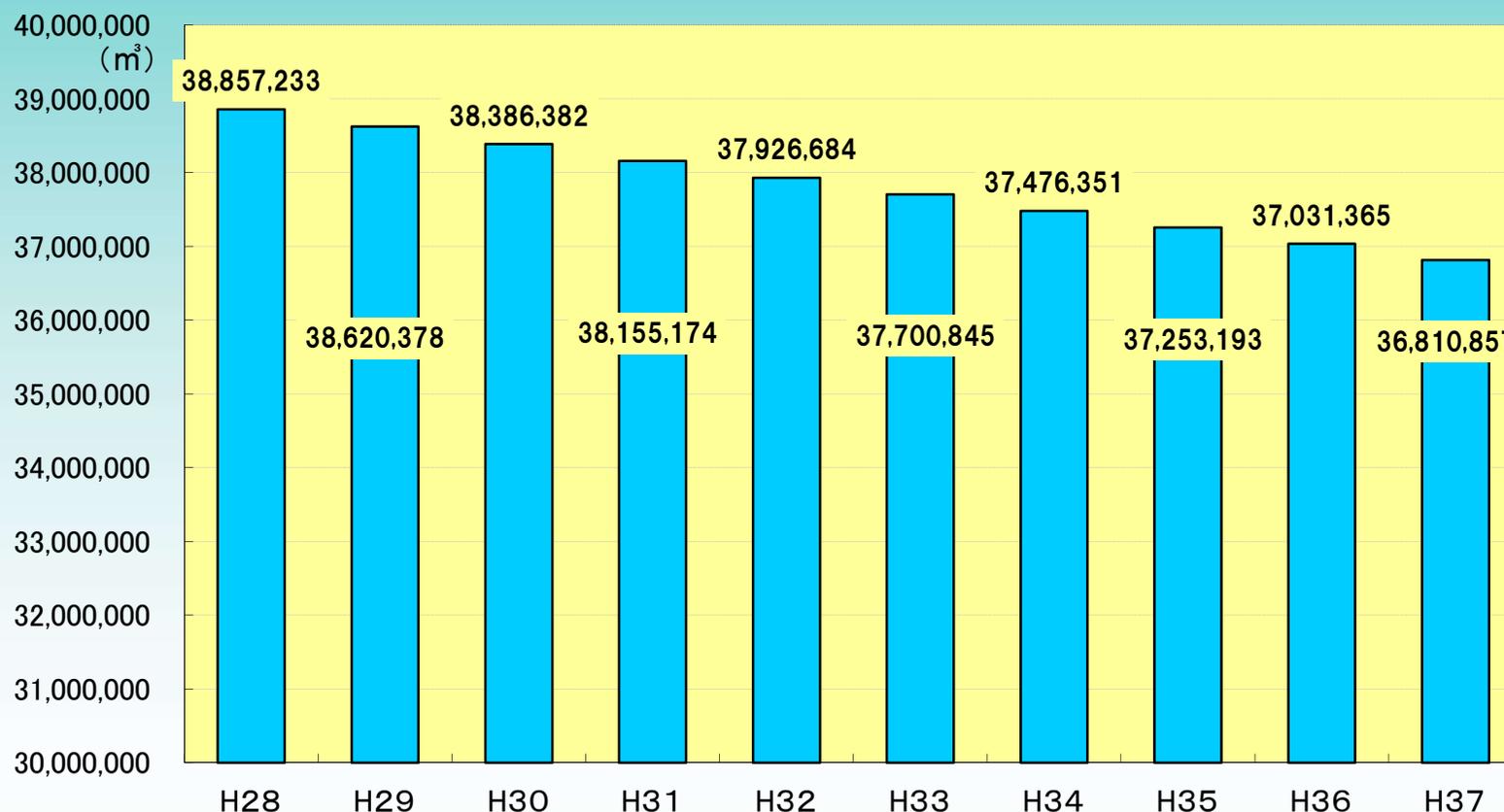


※平成37年度まで、給水人口は減少していく見通し。

水道事業の経営状況

(給水人口・有収水量の見通し)

有収水量の見通し



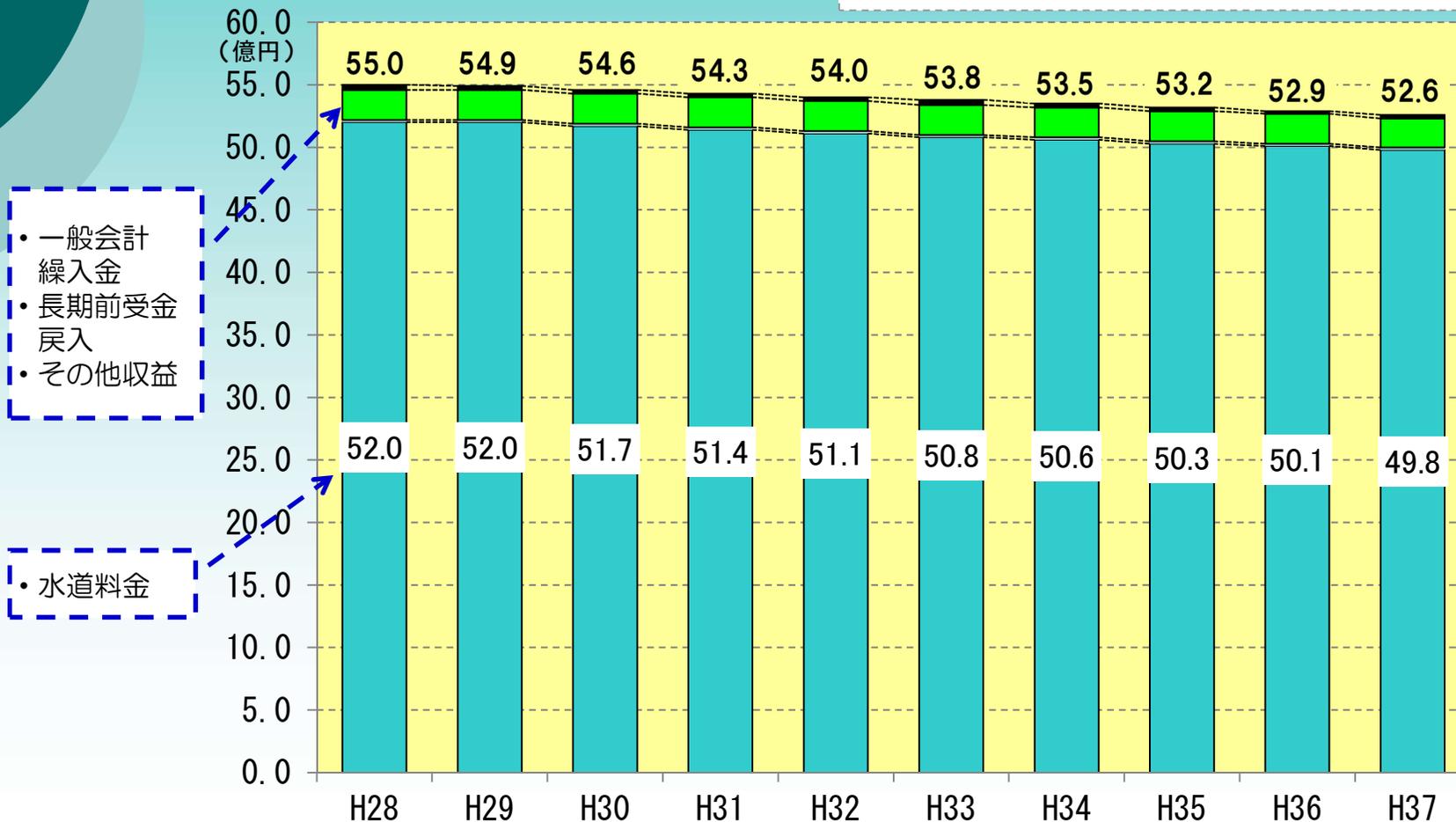
※平成37年度まで、有収水量は減少の見通し（収入減）の見通し。

水道事業の経営状況

(収益的収支の見通し：収入の内訳)

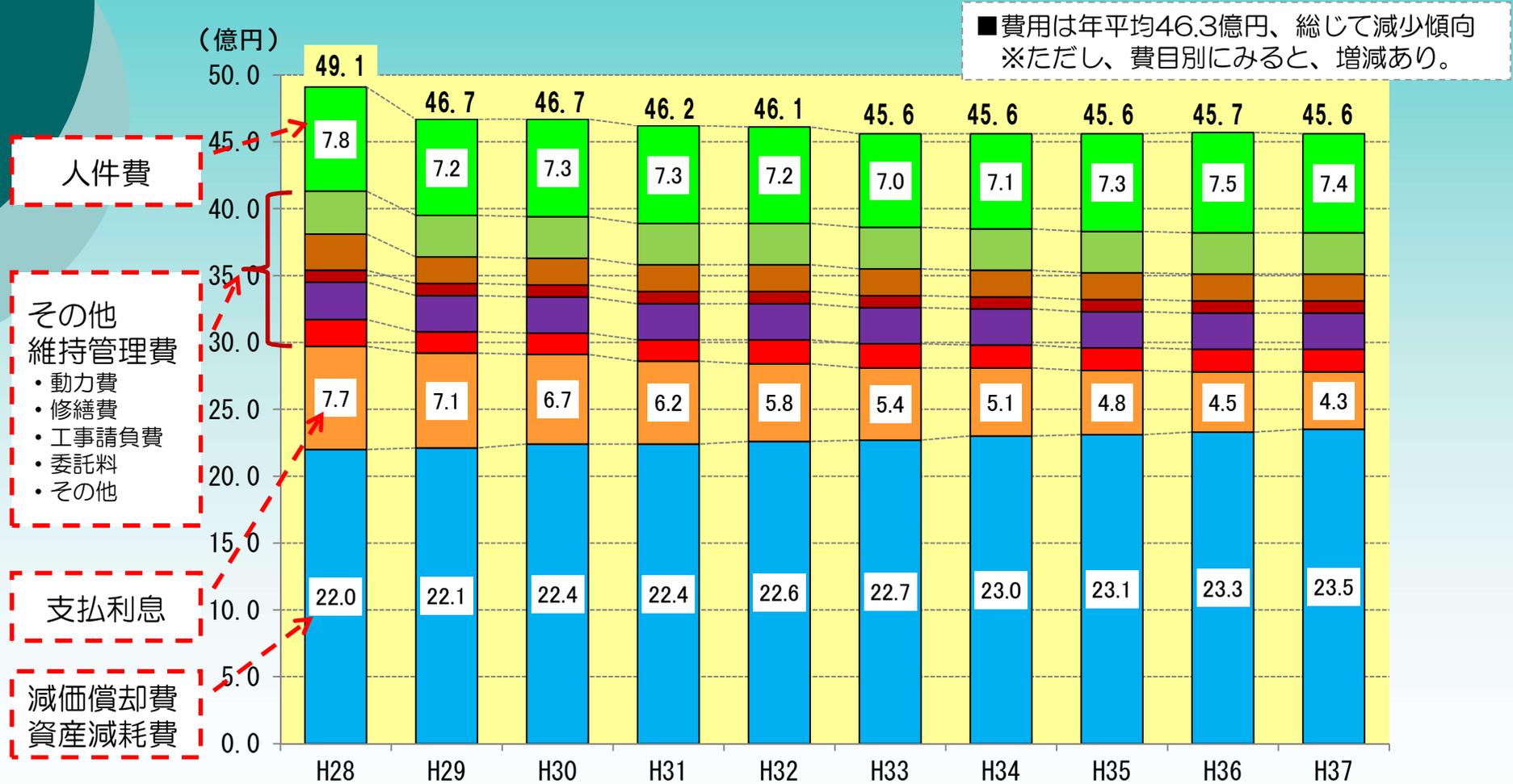
収益的収支(収入)

- 収益は年平均53.9億円の見通しで減収傾向
- 水道料金は、漸減傾向で年平均51億円の見通し



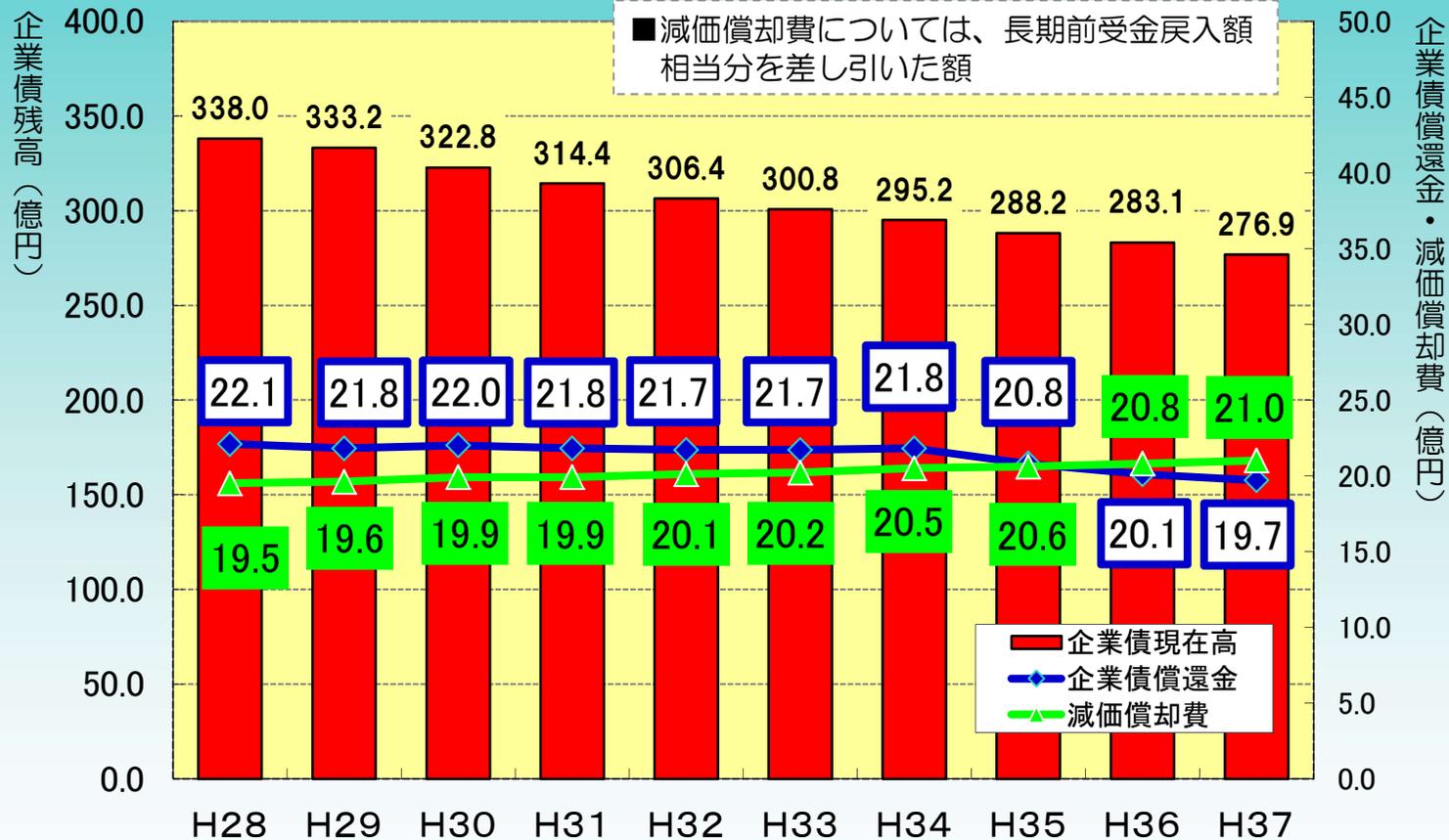
水道事業の経営状況

(収益的収支の見通し：支出費目)



水道事業の経営状況

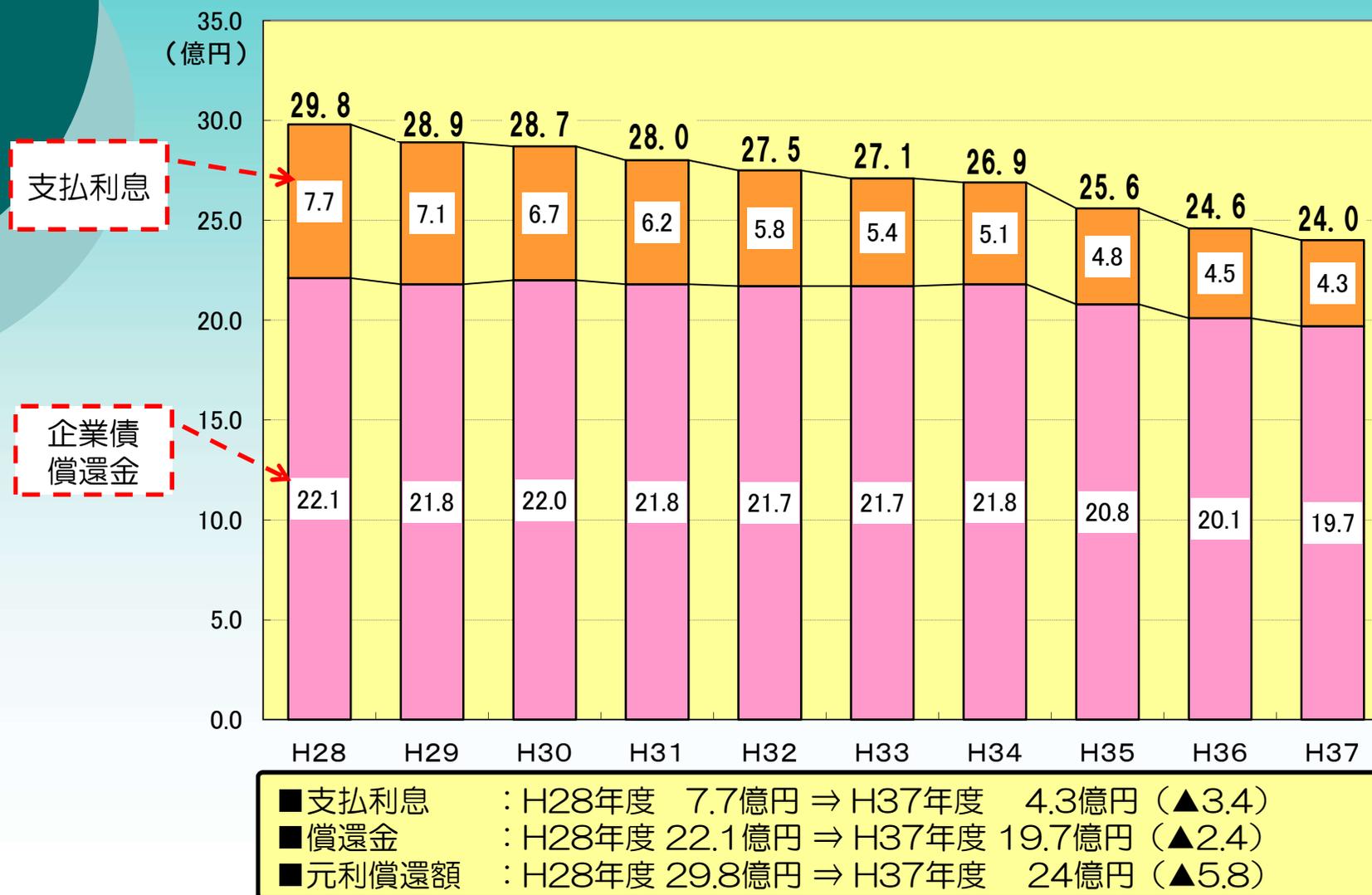
(企業債の見通し：残高・償還金・減価償却費)



- 企業債残高：平成37年度末で 276.9億円の見込み
※ピーク (H17末：419.8億円) から逡減
- 企業債償還金：平成37年度末で 19.7億円の見込み。平成36年度から減価償却費を下回る見込み

水道事業の経営状況

(企業債の見通し：支払利息・償還金)



水道事業の経営状況

(平成25年度審議方針に対する見通し)

収支計画・投資計画方針(平成25年度審議との比較)

■平成25年度審議時の方針

建設改良費:年24億円

利益確保(黒字)を堅持

起債充当率:60%
起債:14億円

企業債残高削減
※294億円(H35末)
料金収入に占める元利
償還額の割合:26.6億円
※50%台前半へ

補てん財源10億円以上確保

■方針に対する見通し

建設改良費:年25.1億円

利益確保(黒字)を堅持

起債充当率:60%
起債:14.7億円

企業債残高削減
※280億円(H37末)
料金収入に占める元利
償還額の割合:24億円
※48.2%へ

補てん財源10億円以上確保

水道事業の経営状況

(財政計画のまとめ)

財政計画の総括

区分	H18~H27実績	H28~H37見通し
料金収入	年平均50.6億円	年平均51億円
建設改良	年平均19.8億円	年平均25.1億円
起債	年平均15億円	年平均14.7億円
補てん財源 残高	10.4億円 H27年度末	14.3億円 H37年度末

水道事業の今後の見通し

(水道事業の経営の見通し)

水道事業経営の考え方

- 平成37年度までの**10年間の長期的視点**から、「収益的収支」と「資本的収支」両面を見通した事業・財政運営

収益的収支と資本的収支の見通し

収益的収支

- 料金収入の減収を、H26年度の料金改定が補う
- 今後、支払利息は**減少**の見通し
- 経費の削減は**企業努力**として継続

■**黒字確保**の見込み

資本的収支

- 水道管の老朽化対策など**必要な投資**の継続
- 企業債の発行抑制と**残高縮減**の見通し
- 計画上必要な**補てん財源**は確保

- 適正な投資は実施
- 企業債残高は**縮減**
- 補てん財源は**確保**

- 老朽化対策等の**投資が継続して必要**、料金収入は**漸減**する見通しから、**厳しい経営環境は継続**するが、今後10年間、経営は**現状を維持**できる見込み。

水道料金のあり方について

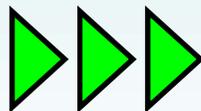
水道事業経営の見通し

設備投資の見通し

- 老朽化への対応や耐震化など災害対応のため、今後10年間で年平均約25.1億円規模の投資を実施

財政運営の見通し

- 節水機器の普及や少子高齢化の影響により、収入は減少していく見通し
- 前回の料金改定による収入の安定化等により、必要な投資を行いつつ、企業債の抑制、企業債残高の減少、補てん財源の確保が可能



現状においては、料金改定を行わなくても、施設設備、財政運営の両面から経営を概ね良好に維持できる見通し

料金算定期間について

経営の状況を的確に把握するため、今回の事業計画、計画財政計画の中間年度である平成32年度までを算定期間とする「4年間」を設定